

文化財の資料学的研究 (①企02-11-1/5)

目 的

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

成 果

- (1) 調査：横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、および修理中である永青文庫本の本紙裏面の調査撮影を行った（塩谷）。菱田春草《菊慈童》（飯田市美術博物館蔵）の調査を行った（塩谷）。
- (2) 美術史研究のためのコンテンツの形成：既に当研究所OBによってカード化されている古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化を行った。作業にあたっては目録（出典等）のみならず当該記事本文も入力し、公開時の利便性を図った（綿田）。東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注を進めた（塩谷・綿田・江村・皿井）。古美術文献目録作成の一環として、付録月報に掲載された文献のデータ化を行った（津田・綿田・小林・江村・皿井）。
- (3) 研究交流促進のための研究会の開催：3月5日に日本美術史研究者のメラニー・トレーデ氏（ハイデルベルク大学教授、ミシガン大学トヨタ客員教授）による講演会「『文化的記憶』としての八幡縁起の絵画化—その古為今用」を開催、土屋貴裕氏（東京国立博物館）・塩谷のコメンテーター、津田の司会でディスカッションを行った。
- (4) 研究成果報告書の作成：『美術研究作品資料』の第6冊として『横山大観《山路》』の編集を進めた（塩谷）。

論文

- ・塩谷純「秋元洒汀と明治の日本画（1）」『美術研究』404 pp.37-52 11.8
- ・江村知子「江戸時代初期風俗画の表現世界」『美術研究』405 pp.63-81 12.1

発表

- ・相澤正彦「浄瑠璃本「かるかや」の画風」企画情報部研究会 東京文化財研究所 11.7.27
- ・皿井舞「平安時代前期から後期へ—六波羅密寺十一面観音像の造像」第45回企画情報部オープンレクチャー 東京文化財研究所 11.11.11
- ・森下正昭「東日本大震災被災地における文化財救援活動調査—オーストラリア学界における発表報告とインタープリテーションの重要性」企画情報部研究会 東京文化財研究所 12.1.24

研究組織

- 塩谷純、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、二神葉子、綿田稔、小林達朗、江村知子、皿井舞（以上、企画情報部）、相澤正彦、中野照男、中村佳史、丸川雄三、三上豊、森下正昭、吉田千鶴子（以上、客員研究員）